

八代のあゆみ	
1603	徳川家康が江戸に幕府を開く。
1619	八代地方で大地震がおこり、麦島城が壊れる。
1622	松江に新しい城（八代城）が作られる。（松江城町）①
1632	八代は細川氏の領地となり、細川忠興が八代城主となる。臥龍梅が植えられる。（北の丸町）③
1633	上野喜蔵が高田で焼き物を始める。
1646	松井氏が八代城代となる。
1665	医王寺が建てられる。
1672	八代城に雷が落ち、大天守閣などを焼失する。
1677	春光寺が建てられる。（古麓町）④
1688	松浜軒がつくられる。（北の丸町）⑤
1755	球磨川大洪水がおきる。
1819	大鞘樋門がつくれ、四百町新地が完成する。（鏡町・千丁町）
1821	七百町新地ができる。（鏡町）
1822	日奈久温泉神社が現在地に移される。（日奈久上西町）
1848	鹿路橋がつくられる。（東陽町）
1849	今泉でたたら製鉄がおこなわれる。（今泉製鉄跡 坂本町）⑦

### 細川氏から松井氏へ

三斎の死後、細川氏の第一の家老である松井興長が、八代城を任されることになりました。松井氏は、興長の父康之の代から、細川氏に仕えて、主君の出世を助けました。興長の代から江戸時代が終わるまで、10代(約225年)にわたって、松井氏が八代城を守り、八代の政治を行いました。



### ⑤ 松浜軒

国指定名勝 北の丸町

松浜軒は、松井直之（興長の孫）が、母崇芳院のために元禄元年（1688）に建てた大名庭園です。当時は、まだ海が近く、松林が連なる砂浜が見えていたことが、松浜軒の名前の由来です。庭内には、四季折々の花が咲き、とくに6月上旬には、肥後花シヨウブが大輪の花を咲かせ、多くの観光客に親しまれています。また松井家に伝わる文化財を展示する資料館があり、江戸時代のお茶道具や掛軸を見ることが出来ます。

### 妙見祭と八代城下町

八代城下町の中心を通る薩摩街道の沿線には、町人たちが住み、商売を営んでいました。江戸時代の中ごろ、これらの町から、妙見宮（現在の八代神社）のお祭り（妙見祭）へ「笠鉾」や「亀蛇」、「獅子舞」などが奉納されるようになりました。この伝統は現在も続いており、八代城下町の繁栄を今に伝えています。

笠鉾

亀蛇

獅子舞

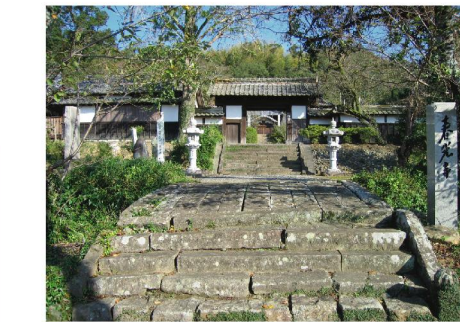


加藤正方の肖像  
(市指定文化財)

### 市指定 ② 浄信寺

市指定文化財 本町一丁目

浄信寺は、八代城を作った加藤正方が、父可重の菩提寺として前任地の阿蘇・内牧に建て、元和3年（1617）麦島城へ、元和8年（1622）、現在地へ移したお寺です。加藤可重や正方の肖像画が残っています。



### 市指定 ④ 春光寺

市指定文化財 古麓町

春光寺は、松井家の菩提寺として延宝5年（1677）、肥後藩主細川綱利が松井家のために建てたお寺です。お寺の名前は、松井家の初代康之の法名「春光院」にちなんでいます。境内の裏山には、松井家代々のお墓が並んでいます。明治10年（1877）の西南戦争では戦場となり、弾のあとが残っています。



### 市指定 ⑥ 光徳寺

出町

光徳寺の前の道は薩摩街道で、城下町の出入り口にあるので、出町と呼ばれています。妙見祭の「亀蛇」を出す町です。光徳寺には、とんち話で有名な彦一や、妙見祭の獅子舞を始めた井松屋勘七の墓があります。また、明治10年（1877）の西南戦争では、官軍の本陣がおかれました。



### 市指定 ⑨ 澤井家住宅と長屋門

市指定文化財 西松江城町

市立博物館の南側にある澤井家住宅と長屋門は、八代に残っている唯一の武家屋敷で、二階建ての住宅は慶応元年（1865）に建てられたものです。



### 八代城本丸にはどこから入るの？



現在、八代城本丸跡の南側（八代宮の正面）に大きな橋がかけてありますが、これは明治時代につくられた新しい参道です。江戸時代は、市役所側にある橋が、本丸に入る表玄関の橋でした。橋の手すり（欄干）には、金属製の飾り金具がついており、これを擬宝珠といいます。たった一つだけ、この城が完成した元和8年（1622）につくられた擬宝珠が残っています。

### 県指定 ① 八代城跡

県指定史跡 松江城町

元和5年（1619）、八代地方は大地震に襲われ、麦島城が壊れてしまいました。そこで、別の場所に再建されたのが、現在の八代城で、元和8年（1622）に完成しました。八代城の建設を任されたのが、加藤家の家老で八代城代をつとめた加藤正方です。正方が築いた八代城とそのまわり形成された城下町が、現在の八代市中心部の基礎となっています。

### 江戸時代 加藤氏、細川氏が八代を治め、その後、225年もの間、松井氏が10代にわたって八代を治めました。



### 県指定 ③ 細川三斎が植えた梅

県指定天然記念物 北の丸町

臥龍梅がある所はもと八代城北の丸で、寛永17年（1640）7月、三斎がここに数奇屋（お茶室）を築き、庭園整備を進めました。臥龍梅は三斎が、八代から百花の魁となる人材出でよと念じて植えたといわれています。幹の形が、地面に臥せた龍のように見えることから、その名があります。樹齢は400年近く、毎年2月には、淡紅白の大輪の花を咲かせます。

### 加藤氏から細川氏へ

寛永9年（1632）、熊本藩主加藤忠広は改易となり、代わりに豊前・豊後国を治めていた細川忠利が、藩主として熊本城に入りました。八代城を築いた加藤正方も浪人となり、広島で亡くなりました。正方に仕えた西山宗因は、大阪で連歌師として活躍し、松尾芭蕉がその才能をうらやむほどでした。八代城には、忠利の父細川忠興（当時、隠居して三斎と名乗っていた）が入りました。三斎は、勇敢で賢い武将であるとともに、茶道や和歌、能など、文化面にもすぐれた人物でした。



### 県指定 ⑦ 今泉製鉄跡

県指定史跡 坂本町西部

球磨川の左岸にあり、嘉永2年（1891）から明治10年頃にかけて、「たたら」という方法で砂鉄を原料に鉄を作っていたところです。付近一帯には鉄山という地名が残っています。

### さまざまな技術

江戸時代の八代では、白い象嵌文様を特徴とする高田焼（八代焼ともいわれる）をはじめ、さまざまな特産品が作られていました。刀につける鐔や、染革（武器などの飾りに使う染めた革）、丈夫で長持ちする漆塗りのお膳（河俣塗）などが各地で作られました。

高田焼（市立博物館所蔵）



### 市指定 ⑧ 本成寺の高麗門

市指定文化財 本町一丁目

本成寺は、加藤清正が息子忠正のために、はじめ官地に建てたお寺で、寛永11年、八代城下へ移転してきました。本成寺の高麗門は、八代城本丸にあった第一門を細川三斎が本成寺に寄進したもので、八代城の建造物で唯一残っているものといわれています。